

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小海町ゼロカーボン・ワーケーション基盤整備事業
事業主体 (連絡先)	小海町 (南佐久郡小海町大字豊里57-1)
事業区分	(6) オ その他 (産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,500,000円 (内支援金:3,600,000円)

### 事業内容

- ① ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会運営  
ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会にて、町内外の多様な意見交換を行い、事業計画書の作成や取組みの協議、実証実験の検証などを実施。
- ② ゼロカーボン・ワーケーションの実証実験  
小海町ゼロカーボンの取組み理解のため、実証実験を実施。参加者には地域課題を把握し、地域課題を解決するグループワークなども実施。  
2回開催 参加者：12名、協議会関係者：14名
- ③ 町民普及  
町民の一人一人がチャレンジしやすいゼロカーボンアクション取組みをチラシにまとめ配布の実施

### 事業効果

- ① 支援金を活用し、協議会を運営し多様な主体と事例を共有しながら新たな取組みを検討し、参加者のゼロカーボン取組みへの意識醸成がされた。
- ② 協議会や実証実験により、ゼロカーボンを意識した体験やワーケーション利用が延べ228人あった。
- ③ 町外向けに町のゼロカーボン事業取組みのイベントを実施し、新たなゼロカーボン事業の取組みが生まれている。R5年度は1社増。
- ④ 取組みやすいゼロカーボンアクションをまとめ、配布し、取組みへの意識醸成がされた。

### 今後の取り組み

ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会の活動では、引き続き多様な主体と意見交換を行いながら、地域課題解決型ワーケーションにより、町内参加者と交流を図ると同時に地域課題の解決も参加者で引き続き検討しながら同時にJ-クレジット商品化と購入者の囲い込みをしていく。また、町民参加者がオピニオンリーダーとなり地域住民への波及効果に繋がることを目的の一つとしているため、より効果的なCO2削減の取組みイベント等を実施し町民1人1人の削減効果を拓けていく予定。



【協議会イベントの様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 地元民へのゼロカーボン周知
- ② 事業推進による関係人口増加
- ③ 事業を通じての関係企業数増加

### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

協議会運営を通じて、町外や地元民へのゼロカーボンの取組みをPRし多様な主体に参画いただいたが、J-クレジット商品化や購入者の囲い込みに今後の課題が残るため。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	女神湖畔の新シェアオフィスを拠点とした地域体験プログラム創出事業
事業主体 (連絡先)	立科町 (企画課地域振興係 電話：0267-88-7315)
事業区分	(6) オ その他 (産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,216,000 円 (うち支援金：1,772,000 円)

### 事業内容

自然の中で働き、暮らすように滞在する方々の満足度を高めるために、シェアオフィスを拠点とした体験プログラムを提供することを本事業の目的として、体験プログラムを提供する地域プレイヤーの掘り起こしを行い、地域体験プログラムを創出した。

また、新しい女神湖畔のシェアオフィスでの仕事時間を主として、新たに創出した地域体験プログラムを行う行程を組み込んだオフサイトミーティングパッケージツアーの案を立案し、テストマーケティングとしてモニターツアーを行った。モニターツアー参加者から意見や感想などのフィードバックを得て、プログラムの磨き上げと改善案を策定した。

### 事業効果

- ・新シェアオフィスを拠点とした体験プログラムの立案  
取組初年度として、「地域プレイヤー」となる事業者を3事業者(3名)の掘り起こしができた。また、その事業者を中心に企業ニーズも把握しながら「地域体験プログラム」を4つ立案することができた。
- ・地域体験プログラムのテストマーケティングの実施  
立案した4つの地域体験プログラムをのモニターツアーで2社12名から評価点と改善点をフィードバックしてもらい、把握することができた。
- ・新シェアオフィス利用者の増加  
計画値の8事業者の利用に対し、15事業者の利用実績を生むことができた。

### 今後の取り組み

- 当初の想定通りの事業実績となったが、今後の課題としては地域プレイヤー及び地域体験プログラムの拡充が必要であり、地域全体として女神湖畔の新シェアオフィスを活用していく機運の醸成を図っていきたい。
- 地域に眠る魅力をパッケージにして、オフサイトミーティング等で滞在した企業に提供するために、地域の事業者と連携を深めていきたい。
- 創出した地域体験プログラムを一つのコンテンツにして、女神湖エリアへのオフサイトミーティング等の開催に向けて企業誘致を推進していきたい。

### (活動写真)



【モニターツアーの様子】

### 【目標・ねらい】

- ①地域プレイヤーの掘り起こし
- ②地域体験プログラムの創出
- ③新シェアオフィス利用者の増加

### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

当初の計画と目標設定を達成することができ、一定の成果が得られた。今年度の事業成果を次年度に繋げて展開できる可能性を見出すことができたため。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	山国の風景と農を楽しむ俳句観光おこしプロジェクト
事業主体 (連絡先)	俳句の里づくり実行委員会
事業区分	(6) オ その他 (産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,310,064円 (うち支援金: 1,048,000円)

### 事業内容

与良は俳句会の巨星・高濱虚子が疎開していた地区で、虚子の暮らしていた家や記念館、ゆかりのある商家が「与良館」、愛した風景が「虚子の散歩道」として地区の方が農地の保全に取り組んでいます。それを食事として提供することで、俳句+食の魅力的なプログラムを開発しました。具体的には、①みんなでワークショップ2回 ②食事付き実験句会(春、秋)、俳句団体のモニターツアー3回を実施しました。

その成果を生かして、与良の魅力や施設利用、食、体験を案内するPRパンフレット(A5版8ページ)を作成し、全国の200の俳句団体に郵送しました。また観光案内所や市内施設等に置き、多くの人の手に届けていきます。

### 事業効果

- ① ワークショップには、地域の人、俳句関係の方、観光局や市役所の方などが一堂に会し、与良の魅力、俳句資源をいかしたまちづくりの話をする事ができた。
- ② 春秋の句会では、遠方から参加した方などに、与良の魅力を教えてもらうことができ、さまざまな俳句観光のアイデアをいただくことができた。食についても、地場の食材の素朴な味が評価された。
- ③ それらの視点やアイデアを盛り込んだパンフレットは、俳句の方だけでなく市役所や観光関係者から高い評価をいただき、協力体制ができた。

### 今後の取り組み

- ① 俳句を観光資源とし、貴重な高濱虚子「小諸時代の作品」を市民はもとより、佐久地域の観光資源として広げ、佐久地域の活性化につなげたい。
- ② 地元地域では小グループの句会の方々を迎え入れて吟行、句会等のお手伝いをしながら地域との交流を図り、またお手伝いのできる人材育成を図りたい。



### 【目標・ねらい】

- ① 地域の人々で、俳句の里の魅力を再発見する。
- ③ 客も交えて郷土食と句会を合わせたプログラムを開発する。
- ④ 印刷物、HPで広く発信する。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

たくさんの人を巻き込み、新たなプログラムを開発することができた。句会への参加者が、想定より少なかったのが残念だった。パンフレットは、いいものができた。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「快適健康都市 SAKU」にて出会うビジネスを求めて～SAKU メッセ 2023～
事業主体 (連絡先)	SAKU メッセ 2023 実行委員会 (事務局 (一社) 佐久産業支援センター 長野県佐久市中込 2336-1)
事業区分	(6) オ その他 (産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	18,900,723 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

### 事業内容

佐久の「魅力ある企業」と「健康・医療」を知ってもらい、ビジネスを呼び込み、「しあわせ健康都市 SAKU」の実現を目指すとともに、市民にも SAKU の魅力を体感してもらうことを目的として開催した。

- ・ 期間: 9/21(木)～9/23(土)
- ・ 場所: 佐久市総合体育館
- ・ 展示/商談会参加企業/団体数: 75 (昨年度 50)
- ・ 来場者数: 3,120 人 (昨年度 3,690 人)



【展示会場の様子】

### 事業効果

- ① アンケート調査により、出展企業の82%、来場市民の87%、来場企業の61%、小中学生・高校生の90%以上が「満足・非常に満足」と回答。
- ② 展示ゾーンでは、「尖った技術・サービス」と「健康体験」(一般市民)、「健康関連製品」(来場企業)への関心が高く、市民の健康意識向上、地域内外の取引促進による健康関連産業の活性化が期待される。
- ③ 見学会および一般来場で、小中高校生の来場が920人あり、佐久の魅力ある企業を知る良い機会となった。
- ④ マッチング商談17件の他、会場内で26件の商談があった。

### 【目標・ねらい】

- ① 「尖った技術」と「健康・医療」を結び付け、佐久市を「健康快適都市」としてアピール
- ② 市民・学生参加型イベントによる健康意識向上、佐久市企業の周知
- ③ 地元企業と県内外企業との取引促進

### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

佐久の強みである「健康・医療」と「魅力ある企業」を市民、学生、来場企業に知っていただくことができた。

### 今後の取り組み

昨年に続く2回目のリアル開催で、健康体験ゾーンに加えて今年度から取り組んだ学生見学会・プレゼンテーションも好評で「市民参加型の健康・医療産業展」のベースは固まりつつある。今回は首都圏から9社の健康関連企業が出展し、出展企業の70%が来年も継続して出展する意向を示しており、今後は、さらに地域外の健康医療関連企業・団体を呼び込み、展示・商談会に参加する企業のエリアを拡大し、規模を拡大するとともに、「しあわせ健康都市佐久」の実現に寄与するメッセとして発展させたい。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久酒造協会 13 蔵とご当地グルメが共同開発する新たな地域の食文化発信事業
事業主体 (連絡先)	信州佐久安養寺ら～めん会 (佐久市猿久保 805-1 電話 0267-66-6660 代表 金子)
事業区分	(6) オ その他 (産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,585,100 円 (うち支援金 : 1,268,000 円)

### 事業内容

『新たな佐久地域のご当地グルメ誕生!!』

佐久の 13 蔵と地元ラーメン店によるコラボラーメン  
スタンプラリーイベントの開催

■開催期間/令和5年12月21日(木)～令和6年  
2月12日(月)

■参加店/佐久地域の酒蔵13蔵、信州佐久安養寺ら～めん会加盟店を含む佐久地域のラーメン店17店。

■ターゲットエリア/東信地域、他県内地域

■広報/週刊さくいだいら、月刊とわいえ

■概要

信州佐久安養寺ら～めん会加盟店を含む佐久地域の  
ラーメン店17店で酒蔵13蔵とコラボレーションした  
ラーメンを開発・販売しました。また、新しく誕生  
したラーメンの情報発信や、話題づくりのために、  
同時にスタンプラリーを行い、スタンプが4つ  
たまったら、オリジナルアルクマピンバッジをプレ  
ゼントしました。その他、副賞として、後日抽選で  
日本酒グラスセットを10名様にプレゼントしまし  
た。また、佐久の酒蔵13蔵と参加ラーメン店や地域  
の観光スポットを紹介するパンフレットを制作し、  
佐久の特産への理解を深め、より多くの人に酒蔵や  
店舗、佐久地域へ足を運んでもらうようにしまし  
た。

### 事業効果

■スタンプラリーピンバッジ交換者 545人  
(ラーメン提供杯数: 2,180杯)

■期間中総提供杯数 4,875杯 (目標 6,000杯)

■スタンプラリー参加者 1,368人 (目標 1,500人)

■スタンプラリー台紙に記載いただいた感想 (台紙  
より一部抜粋)

(高評価)

・行ったことのないお店に行くきっかけができた。  
た。

・アルクマピンバッジがかわいい!

・定期的に開催してほしい。

・またやってほしい。

・それぞれ個性があって面白い。



【伴野酒造×麵匠 佐蔵】



【土屋酒造×麵処 八峰】



【橘倉酒造×中華そばやましげ】



【千曲錦酒造×麵や 天鳳】

- ・メディアにも取り上げられて素晴らしい企画です。
- ・次回はラーメンの投票もあった方がいい。
- ・お酒や酒粕がラーメンとの相性がいい。
- ・こういう企画はうれしい！楽しめました。
- ・家族で巡っています。楽しくおいしい企画です。
- ・次回は全店制覇めざしたい。
- ・次回も期待しています。
- ・大好きな日本酒の別の一面を楽しめた。
- ・父との話題になりよかったです。
- ・企画に感謝。
- ・酒蔵とラーメン店がそれぞれの特徴を生かし佐久が盛り上がればいいと思う。
- ・地域社会に貢献できるイベントに参加できて大変ありがたいです。
- ・地域振興に良いと思いました。
- ・スタンプラリーのおかげで一人ラーメンデビューできました。
- ・酒蔵めぐりもしたいと思いました。
- ・ぜひ定番メニューにしてほしい。
- ・こうゆうイベントがあると、佐久に引っ越してきてよかったですと思う。
- ・佐久の魅力を堪能しました。

**(改善・要望)**

- ・もっと長い期間でやってほしい。
- ・3カ月間くらいやってほしい。
- ・来年もやってほしい。
- ・1,000円以内だとうれしい。
- ・値段が少し高く感じる。
- ・酒粕は菓子作りにも使えるので、菓子コラボもあったらうれしい。
- ・日本酒の飲み比べセットなど販売してほしい。
- ・マップがあるとうれしい。
- ・投票をして人気ランキングなどあったらいい。

**【目標・ねらい】**

■地酒という特色のある地域の食材を生かした「酒蔵コラボラーメン」という新しい食文化をつくり、まちの新しい魅力づくりに寄与します。

■酒蔵コラボラーメンという新しいご当地グルメをつくることで、佐久地域のさまざまな飲食店が参加することができ、多くの飲食店が一緒に取り組むことで、大きな波及効果をもたらすことができます。

■酒蔵や飲食店、酒販売店や地域の観光スポットなどをまとめたパンフレットを配布することで、地域に対する新しいファンの創造と観光スポットへの回遊を高めま

す。  
■参加店 20店×1日提供数 5杯×期間 60日=6,000杯を目標とします。

**※自己評価【 C 】**

**【理由】**

多くの方に参加していただいたが、目標としていた杯数には届かず。参加しやすいスタンプラリーの運営方法や、プレゼントなどを再度検討していきたい。

**今後の取り組み**

酒蔵とのコラボレーションによるご当地グルメの開発をさらに進めるべく、「佐久ケーキ職人の会」に相談しております。ラーメンだけでなく、酒蔵コラボスイーツを開発してもらい、さらに幅広いお客様に食べてもらい、地域のグルメを活性化できればと考えております。今回のイベントに参加されたお客様からの声にもあったように、菓子コラボは実現させたいと思っております。特に女性客の増が見込めるのではないかと思います。

### 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大麦の栽培・精麦と麦みその加工
事業主体 (連絡先)	塩野中山間地営農事業組合 受託部会 内堀 喜代志
事業区分	(6) オ その他 (産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ハード
総事業費	2,266,000円 (うち支援金: 1,699,000円)

#### 事業内容 大麦の栽培と麦みその加工

御代田町内の中山間地営農事業組合受託部会では、遊休農地解消に新たな品目の作付けが課題となっていた。一方、味工房みよたは、地域の特産品を使ったの米麴みその普及を行っているが、米麴みそに加えて、麦みその加工が課題となっていた。そこで、受託部会と味工房みよたで大麦の栽培と麦みその加工の協働事業を行った。

- ① みそ用大麦を30アールの圃場に播種し、玄麦で約200kg、精麦後約100kgが収穫できた。
- ② 大麦を味工房みよたで加工して80kgの麦みそが出来て、町ふれあい広場、JA 御代田支所の感謝祭、マグロ博 (静岡市清水港)、草越の寒の水など町内外のイベントで試食などのPR活動を行った。



(活動写真)

#### 【大麦のPR活動】

#### 【目標・ねらい】

- ① 耕作放棄地の解消
- ② 麦みそ加工の導入
- ③ 雇用の確保
- ④ 地域の産業の活性化

#### 事業効果

- ① 水田転作作物に大麦が追加品目となったことから、今後増加すると予想される耕作放棄地に大麦の栽培が可能となったことにより、転作作物の品種が増え、遊休農地解消につながった。
- ② 大麦の作付け～収穫・出荷までに要した人員はのべ28人・日の雇用が生まれた。加えて、麦みそ加工事業導入により、人員はのべ30人・日の雇用が生まれた。

#### ※自己評価【B】

#### 【理由】

大麦作付けにより耕作放棄地30アールが解消できた。麦みそ加工の導入により地域の産業が活性化した。延べで58人・日の雇用が生まれた。

#### 今後の取り組み

- ① 耕作放棄地解消に向けて、大麦の作付けを100アール程度まで作付面積を増やす事を目標とする。加えて、来年度より麦みその仕込みを、80kg→200kgに増やす計画である。
- ② 大麦栽培で40人・日、麦みその仕込みで70人・日の雇用が生まれる予定です。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	バルーンアカデミープロジェクト
事業主体 (連絡先)	佐久熱気球クラブ (佐久市中込3056 佐久市役所観光課内)
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,342,100円 (うち支援金: 2,560,000円)

### 事業内容

佐久を「熱気球のまち」としてバルーンフェスティバルを含めて、より一層広めるための活動と人材育成を実施。

・ガイドブック、小学生向け冊子、佐久の熱気球30年誌の3冊の作成と活用

- ① 熱気球教室
- ② 市内全小学生、クラブ員、公共機関、日本気球連盟、熱気球NPO法人他への成果物の配布
- ③ 熱気球セミナーの実施 (2/25、参加者17名)
- ④ パイロット育成 (訓練生3名)
- ⑤ ワークショップの開催 (1/14、参加者11名)



【作成した3冊】

### 【目標・ねらい】

- ①熱気球の理解者の拡大
- ②熱気球によるまちづくり実践者の増加と市民への啓発
- ③観光客の増加

### 事業効果

- ① パイロットの受験者養成が3名となり、今後の熱気球の活動の場が広がった。
- ② ドキュメント3種類を作成をする過程にて多数の参加があり、制作過程においてもノウハウ、技術の継承が行えた。
- ③ 市内の全小学生5,000名への冊子配布により小学生への熱気球の知識も広がり、熱気球の日々の活動に小学生が2名参加するようになった。
- ④ 新たに6名が本会に加入し積極的に活動に参加。
- ⑤ 来年度バルーンフェスティバルに向け役員の知識の向上が図られた。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ・個人会員は10%の増加。
- ・教育委員会を通して市内の小学生5,000人に小学生向けの冊子を配布することができた。
- ・パイロット養成で目標達成。

### 今後の取り組み

今回の事業において知識の集約を図ることができ、これから先に向けてより一層のクラブへの加入促進、熱気球教室の開催回数増を図ることで小学校から熱気球に関わる小学生を増やしていきたい。

また、クラブ員によるバルーンフェスティバルの一層の全面的な支援、地域住民との良好な関係を維持すると同時に、佐久市で検討中の観光フライトの構想にも全面的に関わりながら、「バルーンのまち佐久」を推進していきたい。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域資源を活用した地元佐久で挙げる挙式
事業主体 (連絡先)	佐久ブライダル協議会 (佐久市長土呂1169-7)
事業区分	(8) その地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,127,125 円 (うち支援金 : 1,701,000 円)

### 事業内容

- ・今回でこの事業で3年目となり、集大成として地域資源を活用した地元佐久で挙げる結婚式を実際に3組のカップルに行っていました。鼻顔稲荷神社、新海三社にご協力を頂いて神前挙式を行う事が出来ました。
- ・10月7日には鼻顔稲荷、14日、22日新海三社にご協力を頂く事が出来、地域資源を活用した厳かな神前式を行う事が出来ました。

### 事業効果

- ・地元神社での結婚式を通して、地元で挙げる結婚式の意味・価値を感じていただく。市外への挙式流出数約300組の1%、3組のカップルに挙式を挙げていただく(挙式後の披露宴を含む)ことで、3組で3,163,398円の経済還流効果を起こすことが出来た。
- ・挙式で撮影した写真を使いSNS(Facebook、Instagram)などで発信して、今後も神社で挙式を行いたい、佐久ウエディングを行いたいというカップルの創出に繋がった。

### 今後の取り組み

今年もコロナの影響を大きく受けて佐久ウエディングの実施組数があまり伸ばせていない現状である。引き続きPR活動を定期的に行い、地域経済の向上に貢献し、人口増に繋がっていきたい。



【地元佐久で挙げる結婚式の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 地元佐久での地域資源を活かした結婚式

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

10月7日、14日、22日共に天候に恵まれ秋晴れの中、人生の節目としての結婚式を行っていただき3組とも結婚式を行って良かったという感想を頂けた。